

安全の手引き

平成30年2月1日
在ハンガリー日本国大使館

目次

はじめに

1 ハンガリーの治安情勢……………2

2 邦人の被害状況……………2

3 主な被害罪種の傾向と対策……………2

(1) すり

(2) 置き引き

(3) 侵入窃盗

(4) 偽警察官による窃盗被害

(5) 路上強盗、ひったくり、暴行等

(6) 自動車盗・車上狙い

(7) ぼったくり

(8) 空港での盗難

(9) スキミング

4 緊急連絡先……………8

おわりに

はじめに

ハンガリーは、他の欧州各国と比べて、大規模テロ、暴動、クーデター等が発生する危険性は相対的に低い一方で、一般犯罪の被害に遭う可能性は比較的高いと言えます。毎年多くの日本人旅行者や在留邦人の方々が、すりや置き引き、侵入盗等の犯罪被害に遭遇しています。

当館は、皆様の安全対策の一助となるよう「安全の手引き」を作成し、ここ数年間の被害事例をもとに、犯罪の傾向と効果的な対策を紹介しておりますので、是非ご活用下さい。

1 ハンガリーの治安情勢

2010年以降、ハンガリーの犯罪認知件数は増加の一途を辿り、2012年には2000年以降最悪となる約47万件に達しました。そこでハンガリー政府は犯罪対策に重点を置き、国内法の改正、刑法の厳格化、警察官に対する教育強化等の施策を次々に講じた結果、犯罪認知件数は減少に転じ、2017年にはピークだった2012年の半数以下（約22万6千件）まで減少しました。

一方、ハンガリーにおける犯罪認知件数を、2017年の日本の刑法犯認知件数約91万5,000件と比較すると、件数そのものは非常に少ないですが、人口千人当たりの犯罪件数を比較すると、ハンガリーが約23件、日本が約7件と、日本の3倍以上の犯罪発生率となり、高い数値を示しています。

2 邦人の被害状況

ハンガリー政府の統計によれば、2016年中にハンガリーを訪れた日本人渡航者数は5万5,100人であり、毎年多くの日本人観光客がハンガリーを訪れているほか、日系企業関係者や留学生など約1,600人の在留邦人がハンガリーに居住しています。その中で、日本人が被害者となった犯罪は、当館に報告があったものだけでも毎年30～40件発生しています。

すりや置き引き、偽警察官による詐欺盗は、観光名所等を中心に旅行者の被害が多く、侵入窃盗や車上狙いは、当地在住者を対象として発生しています。

3 主な被害罪種の傾向と対策

(1) すり

① 傾向

日本のすりは、単独犯による犯行が主ですが、ハンガリーでは、数人のチームを形成し、相手の注意を引く『引きつけ役』と、実際にすりを行う『実行犯』に分かれるのが特徴的です。

- 「道がわからない」「写真を撮ってほしい」等と言って話し掛け、道案内や写真撮影に気を取られている隙に別の者が盗みをはたらく。
- ترامや地下鉄に乗車する際、人がドアを意図的に塞ぐように立っているため乗車できずにいると、別の者が後ろから乗車するふりをしながら後ろポケットに入っている財布などを狙う。
- 混雑する ترامやフェスティバル会場等で被害者の背後から近づき、鋭利な刃物で被害者の衣類を切り付けた後、善意の第三者を装って被害

者に衣類が切られていることを告げ、被害者が気を取られている隙に別の者が盗みをはたらく。

- バス、トラム、地下鉄等の公共交通機関で、かばんを後ろ掛けにする、リュックサックなどを背負っている場合は被害対象となりやすい。

② 対策

- 人から何かを依頼された場合は断り、応じない。やむを得ず依頼に応じる場合には、仲間と思われる怪しい人物がいないかを必ず警戒・確認しましょう。
- カバンは絶対に前掛けで持ち歩き、横掛け、後ろ掛けにはしない。特に公共交通機関や人混みでは、常にカバンに注意を払いましょう。
- 財布は、上着の胸ポケットやズボンの後ろポケット、ウエストポーチ等、すられやすい場所に入れない。

(2) 置き引き

① 傾向

置き引きは、最も被害の多い犯罪形態の一つで、わずか2～3秒目を離れた際に持ち去られるケースもあります。ブダペストーウィーン間の長距離列車（Rail-Jet）内や駅構内において多く発生しています。

- 長距離列車内で棚の上、あるいは足下にカバンを置き、ほんの数分目を閉じている間に盗まれた。
- 貴重品入りのカバンを座席上に置き、スーツケースを網棚に上げていた数秒の隙に、カバンを盗まれた。
- 座席に座ると、車外から窓を叩いて話し掛けようとする者がおり注視している隙に、座席横のカバンを盗まれた。
- 駅構内の切符売り場に並び窓口で切符を購入している間にスーツケースを盗まれた。
- 聖イシュトヴァーン大聖堂前で写真撮影に夢中になっていたところ、足元に置いていたカバンを盗まれた。

② 対策

- 荷物から目を離さない。
- 列車内で居眠りをしない。
- 長距離列車に乗車する際は、カバンと棚を紐で結ぶ等して、持ち去ることができないようにしましょう。
- 駅構内や列車内では、カバンやスーツケースの一部に自分の体が触れておくようにしましょう。

(3) 侵入窃盗（空き巣、押し入り強盗）

① 傾向

ハンガリーにおける侵入窃盗の発生率は日本の約3倍であり、当館では、在留邦人の方から毎年数件の侵入窃盗の被害報告を受けています。

- 日本に数週間一時帰国していたところ、自宅アパート玄関の鍵が壊され、室内から現金やパソコンなどを盗まれた。
- 被害者が未明に自宅アパートへ帰宅した直後、玄関ドアのチャイムが鳴ったので開けたところ、二人組のスキンヘッドの男が室内へ押し入り、「ドラッグはどこだ」等と言って、被害者に財布を見せるよう要求した。被害者が財布を渡すと、男らは財布の中身を確認するふりをしながら紙幣を抜き取ったほか、室内を物色して立ち去った。
- ホテル客室で就寝中、テーブルの上に置いていた旅券、財布、パソコン等在中のバッグを盗まれた(ドアにオートロック機能がない客室であり、被害者は施錠を忘れていた)。

② 対策

ア 自宅

- 被害当時、自宅の窓や玄関が無施錠である場合があります。「家に人がいるから、2階(以上)だから、大丈夫」との考え方は捨て、必ず施錠しましょう。
- 自宅を長期不在にする際は、長期不在であることが周囲にわからないように、信用のおける人物以外に長期不在の予定を知らせず、貴重品は置いていかないようにしましょう。
- 業者と偽って入り込み、作業中に窃盗行為に及ぶケースも散見されます。業者が自宅を訪問する場合、事前に日時を決めさせるようにします。不審と感じた際には、迷わず、業者の事務所等に問い合わせるようにしましょう。
- 「エアコンの室外機がちょうど足場になる」「庭木や雨樋が、ベランダへのはしご代わりになる」等の構造上の問題がある場合は、直ちに大家に改善を申し入れるようにしましょう。
- 不用意に玄関ドアを開けることはせず、来訪者を魚眼レンズで確認するとともに、ドア越しに対応するよう心掛けましょう。

イ 宿泊先

- 宿泊先のカードキーがなければ特定の階に上がれないようになっていたホテルでも、タイミングを見計らってエレベーターに乗り込んでくる者もいます。部屋に入る際には、周囲を十分に警戒するとともに、部屋のドアは必ず施錠(補助錠も)しましょう。
- 長期宿泊の場合、ハウスキーパーによるクリーニング中(主にバスルームの清掃中)に忍び込み、スーツケース等を盗み出す事案が発生しています。貴重品は必ず携行しましょう。

(4) 偽警察官による窃盗被害

① 傾向

偽警察官による窃盗は、観光客の方を主として、当館に毎年数件の被害報告があります。犯行は、鎖橋などの有名観光地において、数人のグループによって敢行されており、その手口は以下のとおりです。

- 犯行グループの一人が、観光客の振りをして「道を教えてください」などと被害者に声を掛ける。
- その直後、私服警察官役の犯行グループの男が現れ、偽物の警察身分証を提示しながら、「お前らは麻薬の取引をしていたのではないか。確認するので身分証と財布を出せ」と要求し、道を聞いてきた者（犯行グループの一人）と被害者に身分証（旅券）と財布を提出させる。
- 被害者の目の前で財布の中身を確認する振りをしながら、巧妙に高額紙幣だけを抜き取り、「容疑は晴れたから行ってよい」と言って被害者と別れる。
- 被害者は、その場で財布から紙幣を抜き取られたことに気付かず、後から財布の中を確認して被害に気付く。

② 対策

- 見知らぬ人を絶対に信用しないようにしましょう。人を騙そうとする者は、一見して善人風であり、また、偽警察官などは、警察バッジを携行して警察官であると信用させようとしています。
- 偽警察官の要求にその場では応じず、「日本大使館に連絡する」、「最寄り警察署で応じる」などと説明し、毅然とした態度で対応してください。
- ハンガリーの警察官は、その身分及び適正な職務執行を証明するため、身分証及び警察章（バッジ）の両方を市民に提示する義務があります。警察官を名乗る人物から所持品検査を求められた場合、必ず相手方の身分証の提示を求めましょう。
- 犯人らは偽の警察バッジを所持していますが、本物の警察バッジには5桁の本人ID番号が刻印されており、このID番号のないバッジは偽物であることから、確認時の参考として下さい。

【警察官が提示を義務付けられているバッジ（上）及び身分証（下）】



【真正の警察官身分証】

顔写真、氏名、階級、警察章（バッジ）

下部に5桁の数字による認証番号。



【偽の警察官身分証の例】

真正身分証は、“POLICE”ではなく

5桁の認証番号



【真正な警察官身分証】

(5) 路上強盗、ひったくり、暴行等

① 傾向

日本人に対するひったくりや路上強盗などの街頭犯罪は、多くはありませんが、発生しています。発生時間帯はばらばらで、夜間のみならず、白昼堂々人通りのある場所で行われた事案も報告されています。

- 深夜の時間帯に比較的明るい大通りを歩いていると、向かいから歩いてきた酒に酔った男性に、突然顔面を殴られた。
- 冬の朝6時ころ（夜明け前）、繁華街を一人で歩いていたところ、背後から近寄ってきた男にバッグをひったくられた。

② 対策

- 貴重品を携行する場合は、カバンをたすき掛けにする、車道と反対側の手に持つなどの工夫をする。
- 見知らぬ者の誘いには乗らないようにしましょう。また、自分が行ったことのないよく知らない店での飲食は避けましょう。また、飲み物を置いて席を離れないようにしましょう（睡眠薬が混入される事案報告あり）。
- 夜間に外出する際は、常に周囲に注意を払い、不審者に対する警戒を怠らないようにして下さい。不審者を発見した場合は、直ちに人目のある場所に移動するようにしましょう。
- ハンガリーは、街の中心部であっても街灯の明かりは暗く、薄暗い場所が多くあるため、極力夜間の外出は控えるようにしましょう（特に深夜）。
- 万が一強盗やひったくりに遭ってしまった場合、自分の生命・身体の安全を最優先とし、むやみに抵抗することのないようにして下さい。

(6) 自動車盗・車上狙い

① 傾向

ブダペスト市内では、2区及び12区において自動車盗が比較的多く発生しています。被害対象が路上に駐車中の車両であることから、ガレージ付のアパートを選ぶ、外出時は原則として有人監視のある駐車場を使う等することが肝要です。鍵をこじ開けるなどして、車内から貴重品やバッグ等を盗み出す「車上狙い」被害も多発しています。

- 子どもの幼稚園送迎のため、幼稚園前路上に車両を停めて10分後に戻ると、トランクに入れてあったカバンがなくなっていた。
- ブダペスト市郊外の駐車場で駐車券を購入しようと降車。購入方法がわからずにいると、見知らぬ男性が近付き購入の手助けをしてくれたが、車に戻ると、車内に置いてあったカバンがなくなっていた。

- 同僚の車のトランクにカバンを入れたまま1時間ほど車を離れた。その後ホテルに戻りカバンを取り出そうとしたところ、トランクの鍵穴がこじ開けられており、中のカバンがなくなっていた。

② 対策

- 車上狙いは、事前に車両に狙いをつけ追跡している場合もあるため、路上駐車はなるべく避け、監視カメラなどが設置されている有人の駐車場をご利用下さい。やむを得ず路上駐車する場合は、貴重品は全て車外に持ち出し、かつ駐車時間は最小限にするように心掛けましょう。
- アラーム装置のほか、ハンドルロック、シフトロックなどで補強し、犯人に盗むことが難しい車両であることをアピールする。
- 短時間の駐車であっても確実な施錠を心掛けましょう。(妨害電波を発信して、リモコンキーからの施錠電波を阻止する手口も存在します。)
- 駐車する際には、手荷物を車内(含むトランク)に置かないようにしましょう。

(7) ぼったくり

① 傾向

ぼったくりバー・レストランと手を組む若い女性らが、土地勘のない観光客を標的として客引きを行います。客引きを行った女性らは、被害者に犯行場所を特定させないように、声掛けを行った場所からレストランへ直行せず、遠回りをしながら店に向かいます。飲食後、法外な値段を請求されて被害者が店側に抗議すると、店の裏から屈強な男たちが現れ、支払いを強要します。

- 2人組の女性らが「写真を撮ってほしい」と言って話し掛けた後、女性らが「良い店を知っているので一緒にどうですか」と誘ってきた。店に入ると注文する前にお酒がサーブされ、その後すぐに法外な値段を要求され、断ると用心棒のような男らが支払いを強要してきた。
- 1時間ほどお酒を飲んで(1万円分程度)帰ろうとしたところ、約10万円の支払いを要求された。警察へ連絡する旨伝えたところ、店側が態度を急変させ「支払いはいらぬ」と言ってきた(未遂)。

② 対策

- 客引きの誘いには応じないようにして下さい。特に20~30代の女性が二人組などの複数で話し掛けてきた場合には、間違いなく客引きであると考えましょう。
- 店まで入ってしまった場合は、注文をする前に、メニューに料金が書かれているか、その値段が妥当な金額かをよく確認するようにしましょう。
- トラブルに発展しそうな場合には、その場で警察へ通報しましょう。

(8) 空港での盗難

① 傾向

出発・到着ロビーにおけるすりや置き引きに十分ご注意ください。また、最近チェックインの際に預けた荷物の中から金品を盗まれる被害が数件発生しています。

- チェックイン・カウンターでスーツケースを預け、ブダペスト発ロンドン行きのフライトに搭乗した。ロンドンに到着し、スーツケースを受け取った際、鍵が開いていたので中身を確認したところ、お土産用に購入した高級ライターが盗まれていた。

② 対策

- 空港でチェックインの際、預け入れる荷物の中に貴重品は入れない。
- 荷物から目を離さない。
- 空港でスーツケース等の荷物をビニールでラッピングするサービスがあり（有料）、盗難防止に有効なので利用を考える。

(9) スキミング

① 傾向

スキミングは主にATMのカード読み取り部分に特殊な機器を設置して、カード情報を盗みます。ここ数年、被害件数は減少しているものの、観光地の路上等に設置されたATMでスキミング被害が発生しています。

- 聖イシュトヴァーン大聖堂近くにある路上に設置されたATMを利用したところ、キャッシュカードの情報がスキミングされ、後日、数十万円の現金を不正に引き出された。

③ 対策

- 不正機器を設置しやすく、また、警戒心の低い観光客が多く訪れる観光地のATMが狙われやすいので、観光地の路上等に設置されたATMは極力利用せず、銀行内に設置してあるATMを利用しましょう。

4 緊急連絡先

(1) ハンガリーの緊急通報の問題点と対策

① 問題点

- オペレーターの数が少ないため、通報が重なった場合、電話がつながるまで相当長い時間待たされることがある。

② 対策

- 緊急電話がつかない場合に備え、最寄りの警察署や消防署、救急病院の代表番号を携帯電話に入力しておくようにしましょう。また、それらの位置についても把握しておき、状況によっては直接同所に駆け込んで、助けを求めるとようにしましょう。

- 緊急の通報に備え、必要なハンガリー語を覚えておくようにしましょう。また、ハンガリー語が話せ、かつ、いつでも連絡が取れる知人の連絡先を把握しておき、緊急時には代理通報してもらうなどしましょう。

(2) 緊急通報先


- ① 警察:107
- ② 救急:104
- ③ 消防:105
- ④ 緊急用共通電話：112

112は、緊急通報のためのEU共通番号です。外国人がEU各国で、警察、消防、救急のそれぞれの番号を覚える必要はなく、加盟国内ではどこでも112に電話すれば事足りるという制度です。

ハンガリーもEU加盟後に112を導入しました。既存の緊急電話番号が併存し、暫定的に警察が運営しているなど未だ整備途中ですが、旧来の通報先に比べ、112に通報すれば、

- 警察と救急を一度に要請できる
 - オペレーターが、複数言語対応である
- という利点があります。

(3) 在ハンガリー日本国大使館

- ① 所在地：1125 Budapest, Zalai út7.
- ② 代表電話番号：06-1-398-3100
- ③ ホームページ：<http://www.hu.emb-japan.go.jp/>

(4) ハンガリー政府観光局による観光客用ホットライン

06-1-438-8080（英・独語で24時間受付）

観光施設、飲食店等に対する苦情受付のほか、犯罪被害にも一時的に対応。

(5) クレジットカードをなくした場合

- ① Visa：+1-303-967-1090
- ② マスター：+1-636-722-7111
- ③ アメックス：+44-20-8840-6461
- ④ ダイナース：+81-3-6770-2796
- ⑤ JCB：06-800-11956、又は+81-422-40-8122

※上記はカードブランドの連絡先。発行会社に連絡する方法もあります。

(6) 緊急時の簡単なハンガリー語

- ① 助けて
シェギーチェン (Segítsen)
- ② 動けない
ネム・トゥドク・モゾグニ (Nem tudok mozogni)
- ③ 警察を呼んで下さい

- ヒーヴィヤ・ア・レンドゥールシェーグット (Hívja a rendőrséget!)
- ④ 救急車を呼んで下さい
ヒーヴィヤ・ア・メントゥート (Hívja a mentőt!)
- ⑤ 火事だ
トゥーズ・ヴァン (Tűz van!)
- ⑥ 日本国大使館
ヤパーン・ナジクヴェツェーグ (Japán Nagykövetség)

おわりに

日本人が被害者となる事件・事故を1件でも少なくするため、この機会に、皆様に3点お願いします。

1 在留届（変更届、帰国・転出届）の大使館への提出

旅券法により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する人は、在留届の提出が義務付けられています（3か月未満の方も提出いただけます）。在留届は、緊急事態発生時の大使館による安否確認や情報提供の基礎資料となりますので、未提出の方は提出をお願いします。

また、住所、電話番号、メールアドレス等、在留届の記載事項に変更のあった方は変更届、ハンガリー国外へ転出された、日本に帰国される方は帰国・転出届の提出をお願いします。詳しい手続きについては、当館HPをご覧ください。

2 【たびレジ】の登録 (<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

外務省では、海外旅行をされる方々の安全対策として、「たびレジ」という制度を実施しています。「たびレジ」に登録していただきますと、登録期間中、外務省や、登録していただいた国を管轄する日本大使館から発出される安全情報を受け取ることができるほか、万が一、旅行先の国で緊急事態が発生した場合の緊急連絡や安否確認などに役立ちます。手続きは簡単ですので、ご旅行前には是非登録されるようにして下さい。

3 被害に遭われた場合の大使館への連絡

不幸にも犯罪被害に遭われた方は、ご面倒でも当館までご一報ください。ご連絡いただいた情報は、個人が特定されないようプライバシーの保護に配慮した上で、当地邦人社会全体の安全向上に資するよう、皆様に還元します。（了）